



# アイヌタイムズ

## 第34号

2005年6月30日(木) アイヌ語ペンクラブ

アイヌタイムズ第34号(2005年6月30日発行)からアイヌ語抜粋  
著者: 横山裕之

### 銀ギツネ

(アイヌ イタク [アイヌ語])



### 銀ギツネ

(日本語)



銀ギツネ セコロ アイエ スマリ アン ルウェ  
ネ。

ウリヒ アナクネ、タネ オカ メノコ ウタラ カ  
ピリカノ ミクニ プネ ルウェネ。

ネトパ エピッタ クンネ ヌマ ウシ ワ アン コ  
ロカ、レタラ ヌマ カ アン クス、シロカネ ヌペ  
キ アツ ペコロ シラン ペネ。

銀ギツネ アナクネ、ヤヤン スマリ ネノ アン  
ペネ コロカ、ヌマ イロホ パテク シンナノ  
アンペネ。

劣性遺伝 コロペネ クス、シサクノ アヌカ  
ラペネ ルウェネ。

銀ギツネというキツネがいます。

女性は、毛皮のコートでおなじみでしょう。

全身黒い毛色の中に白い毛が混じって、銀色  
の光沢を持つキツネです。

銀ギツネは、普通のキツネと同じ種類なので  
すが、

劣性遺伝のため、ごくまれにしか産まれませ  
ん。

オヤ モシリ タ アナクネ、オロ タ 銀ギツネ  
シネプ カ イサム ウシケ カ アン ヤク アイ  
エ。

アイヌ モシリ オロ ウン 銀ギツネ カ、モトホ  
アナクネ オヤ モシリ オロ ワ アルラ ワ ア  
レシパ プ キラ ワ パイエ プ ネ、セコロ イエ  
ウタラ カ オカ ルウエ ネ。

コロカ、ソノ アン ペ ネ ルウエ？

アイヌ モシリ オロ タ イヨッタ ホシキノ アレ  
シパ 銀ギツネ アナクネ、1917 パ タ オヤ  
モシリ オロ ワノ アルラ ワ アラキ プ ネ ヤ  
ク アイエ。

寛永時代 オロ タ 上原熊次郎 ヌイエ "もし  
ほ草" (アイヌ イタク カムピソシ) カ タ、シトウ  
ムビ オラ クンネシュマリ セコロ アン イタク  
アヌイエ ワ アン。

イナン ペ カ シサム イタク アニ 黒狐 セコ  
ロ アヌイエ ワ アン ルウエ ネ。

ジョン バチラー カラ 辞典 (第 2 版) カ タ "  
シトウベ" オラ "シトウムベ n. A fox  
(principally the black fox)" セコロ アイエ イタク  
アヌイエ ワ アン ルウエ ネ。

知里真志保 ヌイエ ヒ エネ アン ヒ;

"シトウムペ アナクネ スマリ ネ コロカ、ナ ア  
トムテ イタク ネ ルウエ ネ。

イヨッタ アエオリパク ペ クロギツネ (クンネ-  
スマリ) ネ ワ クス、ネワアンペ パテク アポ  
ロセ ヒ カアン。

コロカ、ウセ イタク アニ クンネ シトウムペ  
セコロ カ アイエ ルウエ ネ。"

"萱野茂のアイヌ語辞典" カ タ アヌイエ ヒ  
エネ アン ヒ;

"クンネ-チ-ロンヌブ アナクネ パセ カムイ ネ  
クス アウク ヒ タ アナクネ サパハ アコシラ  
ツキ コロ アエマウコピリカ プ ネ。"

久保寺逸彦 ヌイエ "アイヌ語・日本語辞典稿  
" カ タ、"shitumpe kamui n. 狐の神(狐の頭  
骨)" セコロ アン イタク アン ルウエ ネ。

松浦武四郎 ヌイエ ヒ エネ アン ヒ;

国によっては、銀ギツネのまったくいないところ  
もあるそうです。

北海道の銀ギツネも、起源は和人が養殖のため  
に持ち込んだ銀ギツネが逃げ出して野生化  
したのと言われることがよくあります。

でも、本当にそうなのでしょうか？

北海道における銀ギツネの養殖は、1917 年  
(大正 6 年)に輸入されたものが初めであると  
いわれています。

寛永時代に上原熊次郎が書いた「もしほ草」  
(アイヌ語辞書)の中に、「シツンピ」「クンシ  
ユマリ」という言葉があります。

どちらも日本語で黒狐と書かれています。

ジョン・バチラーの辞典にも、黒狐という意味で  
「Shitube」そして「Shitumbe n. A fox (principally  
the black fox)」という言葉があります。

知里真志保は、次のように書いています；  
「situmpe は、キツネに対する敬称である。

キツネの中でも、アイヌにもっとも貴ばれるの  
は、クロキツネなので、この語を特にクロキツ  
ネの意味に用いることが多い。

クロキツネをふつうは、kunne-situmpe とい  
う。」(知里真志保(1973-74)『分類アイヌ語辞  
典』動物篇、p.144、145、平凡社)

萱野茂のアイヌ語辞典には、以下のように書  
かれています；

「黒狐は位の高い神なので獲った場合には、  
その頭を神として祭れば運がよくなるものだ。  
めったに獲れないので、獲ったら頭骨を神とし  
て魂を入れて守護神にするといい。」(萱野茂  
(1996)『萱野茂のアイヌ語辞典 1、p.221、  
222、三省堂)

久保寺逸彦のアイヌ語・日本語辞典稿には、  
狐の神(狐の頭骨)は、shitumpe kamui とあり  
ます。(久保寺逸彦(編))(1992)『アイヌ語・日  
本語辞典稿』、p.255、北海道教育委員会／北  
海道文化財保護協会)

松浦武四郎は、次のように言っています；

"クンネチロヌプ'、'シトウムピ' アナクネ シコタン モシリ タ オカ ルウエ ネ。  
オラ、舍利(斜里) オロ タ カ フムネ アコイ キ プ ネ ルウエ ネ。  
フレシサム ウタラ カ サンタン ウン クル ウタラ カ、エアラキンネ エラマシパ プ ネ ヤク アイエ。  
オラ、レ イロ ヌマ ウシ ペ カ アン。'島(縞)チロンヌプ' セコロ アイエ プ ネ ルウエ ネ。"  
タンペ ネノ、シサム 銀ギツネ レシパ クニ エトコ タ、アイヌ イタク オロ タ クンネ スマリ アエポロセ イタク アン アルウエ ネ。  
北海道立衛生研究所 オロ ウン 浦口宏二 ニシパ エネ ヤイヌ ヒ;  
クンネ シトウムペ ネヤ クンネ スマリ ネヤ クンネ チロンヌプ ネヤ、アイヌ イタク アニ " 銀ギツネ" アエポロセ ヒ ネ ナンコロ、セコロ ヤイヌ ワ アン ルウエ ネ。  
エチオカ オロ タ、クンネ スマリ ネノ アン ペ アコイキ アムキリ クル アン ヤ?  
オラ、ポン ヒ タ ヌカラ アムキリ クル アン ヤ?  
ネプ カ アムキリ クル アン ヤクン、タン ウルル オロ ウン 写真 ノカハ アナク エヌカラ スマリ ネノ アン ペ ネ ヤ カ、ウラグチ ニ シパ ヌレ ワ イコレ ヤン。

「クン子チロヌプ」、「シツンピ」(黒孤)は、シコタン島に産す。  
また舍利(斜里)辺にても時々捕ること有。

露西亜人(ロシア人)、山丹人(サンタン人)等至而(とういたって)是(これ)を愛するとかや。

また三毛の物有。 島(縞)チロヌプと言う。」(松浦武四郎選集二、名産図会、p410-413、北海道出版企画センター)

このように、銀ギツネの養殖が始めるより前に、アイヌ語の中に黒いキツネを意味する言葉があったのです。

北海道立衛生研究所の浦口宏二さんは、次のように考えています;

この kunne-situmpe やら、kunné-sumari やら、kunné-cironnup が銀ギツネのことではないかと。

昔、猟で、黒ギツネのようなものを獲ったり、

子供のころにこれを見た人はいないでしょうか?

もし、そういう方がいらっしゃいましたら、次のURLにある写真のキツネと同じかどうか、浦口さんにお知らせください。(TEL 011-747-2769)

<http://aynuitak.at-ninja.jp/silverfox3.jpg>

<http://aynuitak.at-ninja.jp/silverfox4.jpg>

アイヌタイムズをご購入していただける方がお知り合いでいらっしゃいましたら、お声をかけていただくと大変うれしく思います。

購読連絡先: 〒055-0101 北海道平取町二風谷 80-25 萱野志朗(宛)

購読料: 1500 円 (4 号ごと/アイヌ語版のみ)

2300 円(4 号ごと/アイヌ語版と日本語版)

読者からの投稿募集:

(連絡先): 〒047-0033

浜田隆史(宛)

北海道小樽市富岡 1-32-136

電子メール: [otarunay@yahoo.co.jp](mailto:otarunay@yahoo.co.jp)

ウェブページ: <https://otarunay.at-ninja.jp/taimuzu.html>

注)アイヌタイムズの著作権は、アイヌ語ペンクラブにあります。

注)1. 赤字は、アイヌ語です。

2. 赤字のイタリック文字は、主に日本語由来のアイヌ語外来語です。